

2024年度

# 給付型助成金志望者募集要項

## 個人対象



公益財団法人  
オービック野田財団  
OBICnoda Foundation



Player's Voice

## 成長するためには何でもやる 躊躇なく挑戦できることに感謝しています

私

は幼稚園年長からフットボールを始めました。3歳年上の兄もフットボールをしており、2人分の防具やユニフォーム代など両親には負担をかけてきました。少しでも負担を減らせればとの思いからオービック野田財団の助成に応募しました。

ファイターズは組織としての行動を大切にしているチームです。個人の責任を徹底し、11人全員で止める。そういったプレーを成功させるには11人の意思と認識を合わせる必要があります。ミーティングには膨大な時間を費やしています。私はフットボールに専念するために、2年時から一人暮らしを始めました。両親からすんなり承諾を得られたのは助成金をいただいているからこそです。

昨シーズン終盤に怪我をしてしまったから、怪我を予防するためのボディケアには力を入れています。身体の使い方のヒントを得ようとピラティスにも通い始めました。主将になった今年は、リーダーシップや組織論に関する本を購入し、チームをどう引っ張っていけばいいか、組織としてどう活動していけばいいかを考えています。自分が成長するために、躊躇することなくお金を使えることに感謝しかありません。

オービック野田財団の方々とは、部活や学業の活動内容や助成金の使途について報告するためにメールでやり取りをさせていただいています。応援してくださっている方、支えてくださっている方達に対して、僕たちは勝利することでしかお返しできません。

今年のファイターズでは『Dominate』をスローガンに掲げ、内容にこだわって日本一になることを目指しています。『圧巻』『圧勝』し、日本一はファイターズしかいないというシーズンにしたいと思っています。全員が日本一に対して本気で取り組み、甲子園で勝った時に全員で喜べるチームを作ります。

### 海崎 琢 2020~2023年度受給

関西学院大学4年。幼稚園年長からフットボールを始める。箕面自由学園高校3年時にはLBとTEを兼任。副将としてチームをまとめた。関西学院大学では1年時から先発LBとして活躍。今季は主将としてチームを率い、前人未到の甲子園ボウル6連覇に挑戦している。



Player's Voice

## 体作りに欠かせない栄養補給を 質にこだわってできています

オ

ービック野田財団の助成金を受けられたことで、フットボールに関しては何不自由なくさせてもらっています。私の場合はポジション柄、体重を維持、増量するために食費がかなりかかります。目標にしているのは1日6食、トレーナーからは6270キロカロリーを目安に摂るように指導されています。毎食、何を食べたか写真を撮ってトレーナーに送り、栄養価を評価してもらっているのですが、ただカロリーをとればいいのかではなく、たんぱく質を多めになど、内容にもこだわらなければなりません。加えて3回の食事と練習後の1日4回、プロテインも摂っているので、結構な費用がかかります。私の場合は実家から通っているの、寮生活をしている人たちに比べると恵まれている方だと思います。しかし、栄養補給のタイミングとして一番いいとされている練習や筋力トレーニングが終わってから家に帰るまでの間食はコンビニで購入しています。その時も、値段を基準にして質を落とすのではなく、サラダチキンなど少しでも体作りの役に立つものという基準で選んでいるのは助成金をいただいているおかげです。

自分が思い切りフットボールをするためにサポートをしていただいていることに対し、フィールドで結果を残して恩返しをしたいという思いは常に持っています。同時に学業においてもしっかりと結果を残すモチベーションになっています。もちろん、助成金をいただいているから頑張るというわけではありません。しかし、しんどい時や、自分に負けそうな時に期待に応えなければという思いが、頑張れるきっかけになっていることも事実です。

中学1年からはじめたフットボールも今年で10年目。学生生活最後のシーズンにすべてを出切って結果を残したいと思っています。

### 藤坂 航 2021~2023年度受給

中央大学4年。佼成学園中学からフットボールをはじめ、高校時代は1、2年時に全国大会連覇を経験。中央大学では1年時から先発OLとしてプレー。今季は副将としてチームを牽引している。



Player's Voice

## 日本で圧倒的なプレーをして 米国挑戦の夢を実現させたい

高

校生の頃から米国の大学でフットボールに挑戦したいという夢を持っています。高校3年生になった頃から米国の大学への進学を目指して進学のルートの色々と探していました。FCSのいくつかの大学に進むチャンスはありましたが、私の目標はFBSに所属している大学でプレーすることです。

一方で、早稲田大学は高校3年時に練習に参加をさせていただき、日本一が狙えるチームだと感じていました。そこで、まずは早稲田大学で1年間挑戦し、自分の立ち位置を確認して再度、米国の大学への編入の道を探ろうと思い早稲田大学への進学を決めました。

早稲田大では仲間にも恵まれ、とても良い環境でフットボールをさせていただいています。ここで日本一を目指したいという気持ちも強くなってきています。今はしっかりと早稲田大で結果を残すことに集中していますが、もっと上のレベルを体験したいという気持ちは変わっていません。来年以降、米国の大学に編入するチャンスを模索し続けています。

今はLBとしてプレーをしています。高校とはブレースピードが全く違い、攻撃のスキルポジションのスピードは何段階も上ですし、体格面でもフィジカルアップしなければと痛感しています。

米国のカレッジに挑戦するためには日本で圧倒的な結果を残さなければなりません。今の自分はずっとがんばらなければという状況です。オービック野田財団からいただいている助成金は、トレーニングや体のメンテナンスなど、いいプレーをするための自己投資に使っています。お金の心配をせずに選手として成長することに集中できているのはありがたい限りです。

今シーズンの目標は、甲子園ボウルで優勝することです。先輩を超える実力をつけ、一選手として活躍したいです。

### 吉川大紀 2023年度受給

早稲田大学1年。小学6年時に父親の仕事の関係で渡米し、テキサス州でアメリカンフットボールに出会う。現地ではRB/Kとしてプレー。高校1年時に佼成学園高校に編入。RBからLB/DBに転向し才能を開花させた。高校2年時にはクリスマスボウル敢闘賞を受賞。昨クリスマスボウルでは決勝FGを決めた。



Player's Voice

## 無理にアルバイトをせずフットボールに 集中できる環境がありがたいです

小

学生の頃にサッカー、野球、ソフトボールと色々なスポーツを経験しました。フットボールはぶつかり合う迫力がそれまで経験してきたスポーツと別次元でした。実際にプレーしてみると、自分のすべてをぶつけて戦うスポーツであることに魅力を感じています。

フットボールによって私の人生は変わりました。体つきも良くなり、集団行動を通して、挨拶や礼儀などマナーを学びました。チームメイトはもちろん、チームの枠を越えて友達の輪も広がり、私の貴重な財産となっています。

そんなフットボールに恩返しをしたい。オービック野田財団の方々との面接では、将来はフットボールの魅力を広めていきたいという話をしました。地域の子もたちにボランティアでフットボールを教えたり、ソーシャルメディアで発信したりして、フットボールの面白さを広められるように、周囲に影響を与えられる実力を身につけた選手になりたいと思っています。

フットボールの用具はとても高価です。スパイクやグローブは消耗品ですが、怪我をせず良いプレーをするためには、自分にあったものを選ぶ必要があります。価格にとらわれずに自分にとって最良の物を選択できるのは助成金のおかげです。

私の周りには、早朝や深夜にアルバイトをして費用を捻出している人がたくさんいます。私は助成金をいただいているおかげでアルバイトは最小限で済んでいます。フットボールに集中できる環境があることに感謝し、頑張らなければならないと肝に命じています。

まずはCBのレギュラーに定着し、対戦相手に『一番怖いCB』と言われるようになるのが当面の目標です。将来的には高校の時にしていたRBも兼務したいという思いもあります。いずれにしても学年に関係なくカイザーズを牽引する選手になるという強い思いを持ってプレーしています。

### 吉田優太 2023年度受給

関西大学1年。大阪産業大学附属高校でフットボールを始める。2年時からRB/DBとして頭角を現し、高校3年時はリーグを代表する選手としてクリスマスボウル出場に貢献。関西大学でもCBとしてすでに主力ローテーション出場を果たしている。

## 募集要項

### 給付対象

日本国内の大学に在学し、スポーツを積極的に行う学生で、スポーツを通じて明るく豊かで活力に満ちた社会の実現に寄与し、他の範となることができる者。

### 対象スポーツ種目

アメリカンフットボール

### 応募資格

給付期間(2024年4月1日~2025年3月31日)において、以下の該当項目を満たしていること。

1. 上記給付期間において大学生であること
2. 専攻するスポーツ種目において、自他ともに認める力量を有していること
3. チームスポーツにおいては、大学または社会人等のチーム(部)に所属している競技者であること
4. 申請時に満25歳未満であること
5. 留年をしていないこと

### 給付金額

給付期間は給付取消に抵触しない限り大学卒業までとし、給付金額は次のとおりとする。年間72万円を前期と後期の2回に分けて給付する。(返済義務がない給付型)

- ◎前期分給付 36万円(5月末頃予定)
- ◎後期分給付 36万円(11月末頃予定)

上記応募資格を喪失した場合、また当財団の助成金の廃止要件に該当した場合、助成金の廃止および返還請求を行うことがある。

### 申請手続

公益財団法人オービック野田財団サイト内、エントリーフォームからプレエントリーを行うこと。プレエントリー完了後、下記の書類を申請期限までに事務局宛に送付すること。なお、申請書類は返却しない。

1. 助成金給付願書(個人)(指定書式)
2. 在学学校長等の推薦書(指定書式)
3. 指導教授、指導者または協会等からの推薦書(指定書式)
4. 成績証明書(発行できる最新のもの)
5. 住民票(家族全員でマイナンバー無し、3ヶ月以内のもの)
6. (一次選考合格者のみ)扶養者の所得証明書

### 申請期間と給付決定予定

◎申請期間 2023年11月1日~2024年1月31日(当日消印有効)

◎給付決定 2024年3月末日予定

なお、給付決定後、入学または進学ができなかった場合については、給付を取り消す。

### 選考と結果通知

1. 一次および二次選考は選考委員会で行い、最終選考は3月下旬の理事会にて決定する
2. 一次選考は書類審査を行い、合否については通過者のみ連絡する
3. 二次選考は面接を行う
4. 最終選考は二次選考結果をもとに理事会で行い、結果については全員に連絡する
5. 給付決定した場合は、4月時点の在籍証明書および財団指定の振込依頼書を事務局宛に送付すること
6. 給付後、毎月(5日締切にて)活動報告書兼使途報告書を提出すること

### 選考基準

1. 心身ともに健康である者
2. 学業に意欲があり、確実に修了できる見込みがあると認められる者
3. 特定のスポーツにおいて、特にすぐれた資質、能力があると認められる者
4. 経済的な支援を必要とする者
5. 定期的な連絡が行える者(月次報告提出および電話・メールにて連絡が取れること)

### その他

1. 給付が決定した場合、当財団関連の印刷物・ホームページで氏名等を公表する場合がある
2. 在学からの問い合わせには、選考内容以外について回答を行う。また当財団から在学へ問い合わせを行うことがある
3. 申請書類上の個人情報については、当助成金対象者の選考以外に使われることはない
4. 助成対象者が学業を修了した後の進路に制約は設けない
5. 財団主体の助成対象者交流会を年1回程度開催する

### 願書記入・作成上の注意

1. 助成金給付願書(個人)は必ず本人が直筆にて記入すること(保護者または身元保証人欄を除く)  
※諸事情により日本語での記入に問題がある場合には、事務局へ相談のこと
2. 願書および推薦書の両面印刷は不可
3. 給付時の金融機関口座は、必ず本人の口座を指定のこと(本人名義以外の口座への入金が行わない)

## 財団概要

- ◎設立.....2017年1月11日
- ◎公益法人認定.....2018年3月8日
- ◎主務官庁.....内閣府
- ◎代表者.....理事長 野田順弘
- ◎目的および事業

スポーツ・学術・文化・医療・社会福祉・国際交流などの各分野において、経済的支援を行うことにより、わが国の発展に資することを目的とします。この目的を達成するために次の事業を行います。

1. スポーツ・学術・文化・医療・社会福祉・国際交流などの各分野において活動する学生及び団体に対する経済的支援
2. スポーツ・学術・文化・医療・社会福祉・国際交流などの各分野における研究事業に対する経済的支援
3. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

## お問い合わせ・願書送付先

公益財団法人  
オービック野田財団 事務局

〒104-8328  
東京都中央区京橋2-4-15 オービックビル内

TEL : 03-3548-0012  
FAX : 03-3548-0013

(※電話受付時間: 平日10:30~17:00/土日祝日休み)

E-mail : zaidan@obic.co.jp

スマートフォンからのアクセスはこちら



Web : <https://obicnoda-zaidan.jp/>